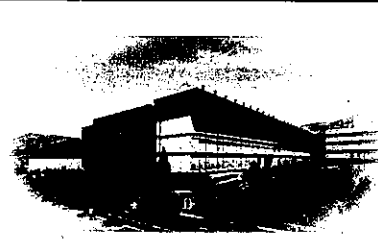


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_評価版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)京阪奈ビル	階数	地上4F
建設地	京都府相楽郡精華町	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	30人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	
竣工年	2025年12月 予定	評価の実施日	2024年4月25日
敷地面積	72,525 m ²	作成者	篠内文恵
建築面積	9,132 m ²	確認日	2024年5月21日
延床面積	28,915 m ²	確認者	市川雅輝



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)
<p>BEE = 1.2 ★★★★★☆☆☆☆</p> <p>S: ★★★★★, A: ★★★★★, B: ★★★★★, B+: ★★★★★, C: ★★★★★</p>	<p>★☆☆☆☆☆☆☆☆</p> <p>30% ★☆☆☆☆ 60% ★☆☆☆☆ 80% ★☆☆☆☆ 100% ★☆☆ 100%超: ★☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>① 参照値: 0 (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>② 建築物の取組み: 46 (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>③ 上記+②以外の: 92 (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>④ 上記+: 138 (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能: 5</p> <p>Q1 室内環境: 4</p> <p>Q3 室外環境 (敷地内): 3</p> <p>LR1 エネルギー: 2</p> <p>LR2 資源・マテリアル: 1</p> <p>LR3 敷地外環境: 1</p>

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 3.6</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.3</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 4.1</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 3.5</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 2.8</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 2.7</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.8</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>●既存研究所や豊かな自然を活かし、より良くしていくことを目指す ●豊かな自然に囲まれた京阪奈の丘陵地帯と、常に情報通信の最先端技術を研究、検証し続けていく本施設が、末永く調和のとれた景観を保持し続けることを目標とする</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>●建物内部に使用する建築材料等は所要の質及び性能を有するものを使用する ●各材料は、ホルムアルデヒドを放散しないか、放散が極めて少ないものとする ●VOC等に関連する材料はMSDSにより安全性を事前に確認する</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>●高い天井により開放感のある室内空間 ●免震構造の採用により、地震時の損傷を最小限に留め、建物を長寿命化 ●外装材はPC板やECP板、金属断熱サンドイッチパネル等の長寿命の材料を採用</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>●地域性のある外装材、色味を採用することで良好な景観を形成 ●植栽により、季節感あふれ、豊かで快適な環境を形成</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>●高い断熱仕様による冷暖房負荷の軽減 ●LED照明器具、高効率空調設備等エネルギー消費効率の高い設備の導入</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>●京都府産木材の使用 ●重要諸室(機械室)を中心にN2ガス消火を採用</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>●既存の樹木は極力保存した上で、緑地帯にはカツラ等地域に馴染み深い樹木をはじめ、四季折々に花咲く木々や地被植物を植え、季節感あふれ、豊かで快適な緑地帯となるよう心がける ●緑のレイヤーを重ねることで、精華町の緑あふれる美しいまち並みに寄与する計画とする</p>

■ CASBEE Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_評価版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDG4(v2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)京阪奈ビル	階数	地上4F
建設地	京都府相楽郡精華町	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	30人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	
竣工年	2025年12月 予定	評価の実施日	2024年4月25日
敷地面積	72,525 m ²	作成者	藪内文恵
建築面積	9,132 m ²	確認日	2024年5月21日
延床面積	28,915 m ²	確認者	市川雅輝

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★ 100%超: ☆

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価結果 (レーダーチャート)

SDG 1, 2, 10, 14, 16は他のゴールに無効されています

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.5

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 2.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項

総合

- 既存研究所や豊かな自然を活かし、より良くしていくことを目指す
- 豊かな自然に囲まれた京阪奈の丘陵地帯と、常に情報通信の最先端技術を研究、検証し続けていく本施設が、未永く調和のとれた景観を保持し続けることを目標とする

その他

- 防犯カメラ、街灯、フェンス等を使用し、24時間中央監視室にて管理、監視を行い、高い防犯性を確保

Q1 室内環境

- 建物内部に使用する建築材料等は所要の質及び性能を有するものを使用する
- 各材料は、ホルムアルデヒドを放射しないか、放射が極めて少ないものとする
- VOC等に関連する材料はMSDSにより安全性を事前に確認する

Q2 サービス性能

- 高い天井により開放感のある室内空間
- 免震構造の採用により、地震時の損傷を最小限に留め、建物を長寿命化する
- 外装材はPC板やECP板、金属断熱サンドイッチパネル等の長寿命の材料を採用

Q3 室外環境 (敷地内)

- 地域性のある外装材、色味を採用することで良好な景観を形成
- 植栽により、季節感あふれ、豊かで快適な環境を形成

LR1 エネルギー

- 高い断熱仕様による冷暖房負荷の軽減
- LED照明器具、高効率空調設備等エネルギー消費効率の高い設備の導入

LR2 資源・マテリアル

- 京都府産木材の使用
- 重要諸室(機械室)を中心にN2ガス消火を採用

LR3 敷地外環境

- 既存の樹木は極力保存した上で、緑地帯にはカツラ等地域に馴染み深い樹木をはじめ、四季折々に花咲く木々や地被植物を植え、季節感あふれ、豊かで快適な緑地帯となるよう心がける
- 緑のレイヤーを重ねることで、精華町の緑あふれる美しいまち並み作りに寄与する計画とする

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される